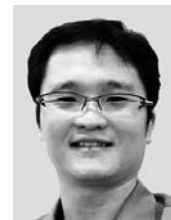


第2回インターカレッジ・バイオリダーズ参加報告

大淵 貴之



若手のページ

2009年7月27～30日に東京都・晴海グランドホテルにて開催されたインターカレッジ・バイオリダーズ(主催:バイオインダストリー協会(JBA), 経済産業省)に、社会人枠で参加しました。本企画は、経済産業省が産学連携人材育成事業の一環として理系大学院生向けに実施されたもので、12大学・24名の大学院生と、6名の社会人が参加しました。本企画の課題は、「大学の研究シーズをもとにバイオベンチャーを立ち上げるための事業化プランを作成する」というもので、5人編成のチームで3日間かけて事業計画を練り、最終日には投資家への説明を想定した15分間のプレゼンテーションを行います。また、会社設立に関する制度や知財戦略、医薬品業界の現状、バイオベンチャーの成功例など、業界のトップで活躍されている企業の研究者や、企業の経営者による実践的な講義を受け、事業計画に反映させていきます。

今回のテーマは、「幹細胞の作成・分化誘導技術と、臍島移植研究の実績をバックグラウンドとして持ち、体内埋め込み型の細胞維持装置(既存技術を基に本企画向けに想定されたもの)を開発しているラボで、バイオベンチャーを設立する」というものでした。ディスカッションが始まると、技術の詳細についての議論は白熱するのですが、「多くの患者を救う可能性がある素晴らしい技術なのはわかるが、どうやって利益を得ればいいのか?」というところで議論は膠着状態になってしまいます。私の参加したチームでも与えられたテーマとビジネスとのギャップがなかなか埋まらず、行き詰まった感がありました。そこで提案したのが、「オリジナルのアイデアに拘らず、既存のビジネスモデルを参考にしては?」ということでした。そして目にとまったのが、「民間臍帯血バンク」というビジネスでした。白血病患者への造血幹細胞移植のため、医療機関で集められた臍帯血を保存し、HLA型の一致する患者に提供する公的臍帯血バンクとは違い、主に自分や家族のために使用することを目的とし、有償で臍帯血を保存する民間の臍帯血バンクがあります。臍帯血は、白血病だけでなく再生医療のリソースとして使用できる可能性が期待されており、提供者が支払う費用はいわば保険のようなものと考えられます。既存の事業を参考にすることで、停滞していた議論が一気に活性化し、皆から興味深い提案が次々と出てきました。

こうして出たアイデアを組み立て、魅力のある事業計

画に仕上げるところこそが、最も苦勞した部分でした。コスト計算や法令、制度などで判らない部分は、講義の内容を参考にしたり、事務局の方にアドバイスを頂いたりして、毎日深夜に至るまで(3日目のプレゼン前日は、全チームほぼ徹夜の作業でした)知恵を絞り、プランをまとめました。最終的に「民間臍帯血バンク」との提携を盛り込んだ、臍帯血を利用した再生医療ビジネスを提案し、チームは優秀賞を頂きました。他のチームでは、事業化のリスクや事業の成長予測をもとに、将来の株式公開時のキャピタルゲインの予測まで具体的に示したもののから、幹細胞培養技術を応用して高級毛皮のコートを作るといったユニークなものまでさまざまな提案がなされ、どれも3日間でまとめたとは思えない説得力のある事業計画に仕上がっていました。学生向けの企画とはいえ、講師の先生方から開発の功勞話や開発者としての心意気などを直に聞くことができたことや、何より皆で3日間頭をフル回転させて一つのことに取り組んだ経験は、私にとっても非常に有意義なものになりました。

参加した学生の皆さんは口を揃えて「(課題の技術のような)素晴らしい技術を与えられても、利益を得ることは一筋縄ではいかない」と実感したようでした。技術が優れていることが必ずしも事業の成功に結びつくとは限りません。一方で、どこにでもある技術の寄せ集めの製品が(語弊はありますが)、アイデア次第で大きなビジネスになることもあります。参加した皆さんは、自分の手がけている研究がビジネスとなることを想定したときに、ビジネスに至るまでのどの過程でオリジナリティーを求めるとかという点で、新しい見方ができるようになったのではないのでしょうか。

今回参加した学生の皆さんは、有志で会場近くの居酒屋に繰り出したり食事を共にしたりする中で、研究談義に花が咲いたり今後の進路について相談したりと、交流も深まったようです。こうして知り合った仲間との交流は、これからは是非大事にしてほしいと思います。さまざまなバックグラウンドを持つ人たちとの交流によって、頭の中にたくさん引き出しを作っておくと、いつか役に立つときが来ると思います。

稿を終えるに当たり、本企画を紹介下さり、3日間お世話になったJBA、レクメド、講師の先生方、経済産業省生物化学産業課、その他ご関係の皆様へ感謝致します。